

【生薬名】金銀花 *LONICERAE FLOS*

【起源植物】スイカズラ *Lonicera japonica*



【科名】スイカズラ科 *Caprifoliaceae*

【別名】吸い鬘

【薬用部分】花蕾、5～6月に開化

【主成分】フラボノイドのルテオリン

【薬性】気味は甘寒、帰経は肺胃心脾に属す

【効能】●清熱解毒

●種々のはれもの、風邪、熱、下痢、むくみ、関節痛、腰痛に
忍冬は1日30gを煎服、金銀花は1日6～9g

●痔、あせも、腰痛に忍冬100gを濃く煎じて風呂に入れる

●口内炎には濃く煎じてうがいをする

●忍冬は清熱解毒の力は金銀花より弱い去風活絡の効能は強い、
清熱解表薬のほか風湿の痺痛にも使用する、1日5～10g

●ともに代表的な清熱解毒薬で癰腫瘡毒、温病発熱、熱毒血痢、
筋骨疼痛、皮膚の各種化膿、特に背中や乳房など身体表面の化
膿、流行性肝炎、細菌性下痢などの分野での応用が目立つ

●実験的な抗菌スペクトルはかなり広い

●化膿性皮膚疾患、感冒、腸炎、細菌性下痢などに金銀花は利用

●忍冬は急性肝炎、血便、内臓の病症に利用

【出典】●(本草綱目)

【処方例】●銀翹散、托裏消毒飲、荊防敗毒散